

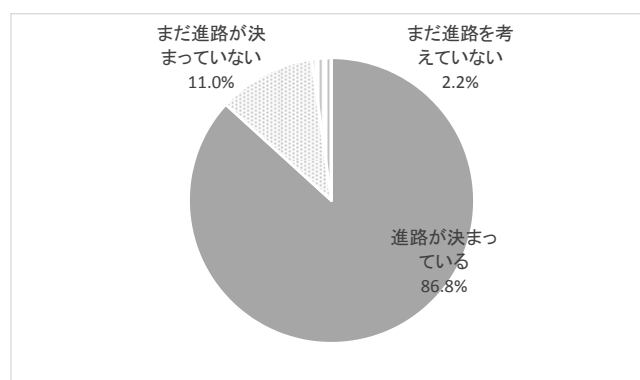
第2章 キャリア行動

本章では学生のキャリア行動に関する調査結果の分析を行った。キャリア行動として2017年度卒業・修了生における進路の決定状況（2017年1月時点）および進路への満足度、全学年学生における進路の決定時期、進路に関する相談相手、キャリア支援行事への参加およびその評価について取り上げた。

1. 2017年3月卒業および修了者のキャリア行動

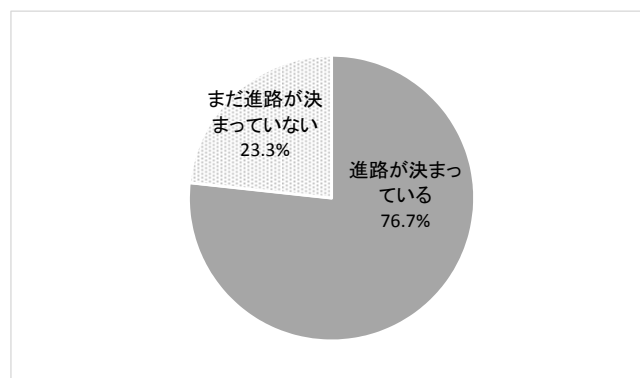
(1) 2017年3月卒業および修了者の進路決定状況

2017年3月卒業の学部生および修了する院生を対象に、進路の決定状況（2017年1月時点）を尋ねた。「あなたは就職・進学先などの進路が決まっていますか（内定していますか）。あてはまる数字を1つ選んでください」として、「1.進路が決まっている」、「2. まだ進路が決まっていない」「3. まだ進路を考えていない」から選択してもらい回答を得た。学部の結果を図表2-1に示す。学部生では、86.8%の学生は進路が決まっている。しかし、まだ進路が決まっていない学生は11.0%となっている。



図表2-1.進路が決定しているかどうか（学部生）

同様に修士院生の結果を図2-2に示す。進路が決まっている院生は、76.7%と学部生の割合に比べて低い割合である。この理由として、修士院生の場合は、博士課程への進学か企業への就職として就職活動を止めていないことが推測される。

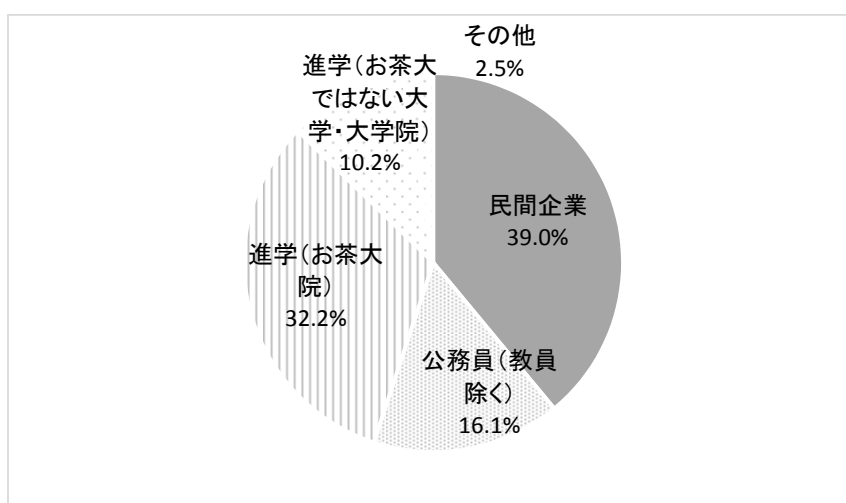


図表2-2.進路が決定しているかどうか（修士院生）

(2)「進路が決まっている」学生の具体的進路

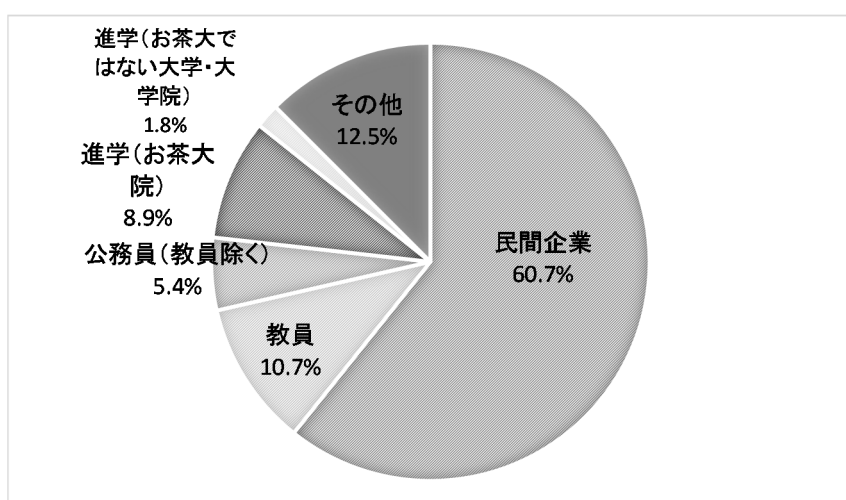
次に、先の質問で「進路が決まっている」と回答した学部生 118 名に、具体的な白を「1. 民間企業」、「2. 教員」「3. 公務員（教員を除く）」「4. 進学（お茶の水女子大学大学院）」「5. 進学（お茶の水女子大学ではない大学・大学院）」「6. その他」から選択してもらい回答を得た。学部の結果を図表 2-3 に示す。

学部生では、86.8%の学生は進路が決まっているが、具体的な就職先として、民間企業と回答した者は 39.0%、公務員は 16.1%であり、本調査で教員と回答した人はいなかった。進学では、お茶の水女子大学大学院への進学は 32.2%、お茶の水女子大学ではない大学・大学院は 10.2%であった。



図表 2-3.具体的な進路（学部生）

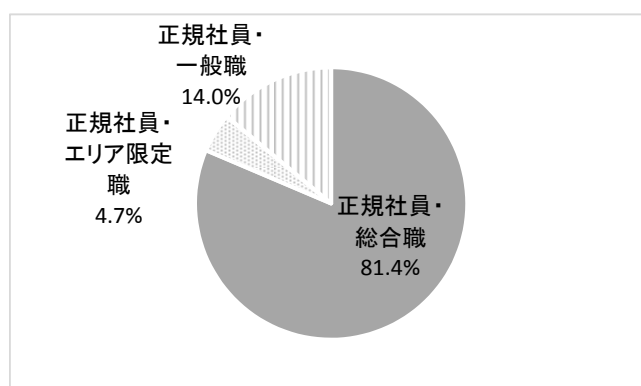
修士院生の結果を図表 2-4 に示す。修士院生では、76.7%の学生は進路が決まっているが、具体的な就職先として、民間企業と回答した者は 60.7%、教員は 10.2%、公務員は 5.4%であった。進学では、お茶の水女子大学大学院への進学は 8.9%、お茶の水女子大学ではない大学・大学院は 1.8%であった。



図表 2-3.具体的な進路（修士院生）

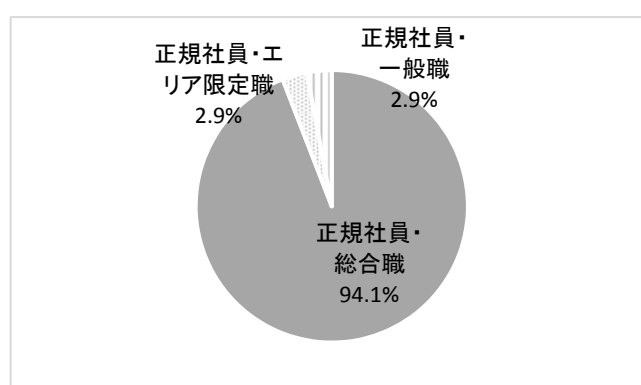
(3) 民間企業での就業形態

(2) で「民間企業」に就職する学生を対象に、就業形態について「1. 正規社員・総合職」「2. 正規社員・エリア限定職」「3. 正規社員・一般職」「4. 非正規社員」「5. まだ決まっていない」として尋ねた結果を図表 2-4,2-5 に示す。図表 2-4 では学部生 43 名が回答した結果を示す。正規社員・総合職と回答した人は 81.4%と約 8 割が正規社員・総合職として就職をする予定である。次いで、正規社員・一般職が 14.0%、正規社員・エリア限定職が 4.7%と続き、民間企業はすべて正規社員での就業となっている。



図表 2-4.民間企業での就業形態 (学部生)

同様に、図表 2-5 に修士 34 名が回答した結果を示す。正規社員・総合職と回答した人は 94.1%と 9 割以上が正規社員・総合職として就職をする予定である。正規社員・一般職および正規社員・エリア限定職はそれぞれ 2.9%、各 1 名ずつである。修士修了生は学部生と比較してほとんどが総合職として就職することから、キャリア志向が学部生よりも高いことが示された。



図表 2-5.民間企業での就業形態 (修士院生)

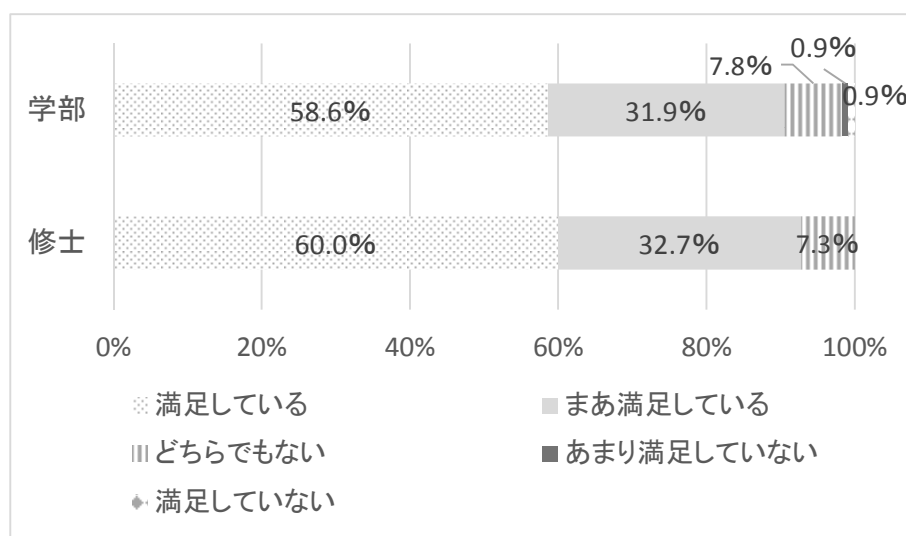
(4) 進路への満足度

(2) の問いにおいて「進路が決まっている」と回答した学部生 116 名、修士 55 名に対し、進路先に対する満足度について尋ね、「1. 満足している」「2. まあ満足している」「3. どちらでもない」「4. あまり満足していない」「5. 満足していない」から選択してもら

い、回答を得た。結果を図表 2-6 に示す。

学部生では、「満足している」と回答した人は 58.6%、次いで「まあ満足している」31.9%、「どちらでもない」7.8%であった。「満足している」「まあ満足している」の合計 90.5%であったことから学部生の約 9 割は進路先に満足をしていることが示された。

次に修士院生も同様の結果であり、「満足している」と回答した人は 60.0%、次いで「まあ満足している」32.7%、「どちらでもない」7.3%であった。「満足している」「まあ満足している」の合計は 92.7%であった。全体的にお茶大生は、進路先に満足をしているが、約 1 割弱の学生では満足度は「どちらでもない」ものの進路を決定しているようである。

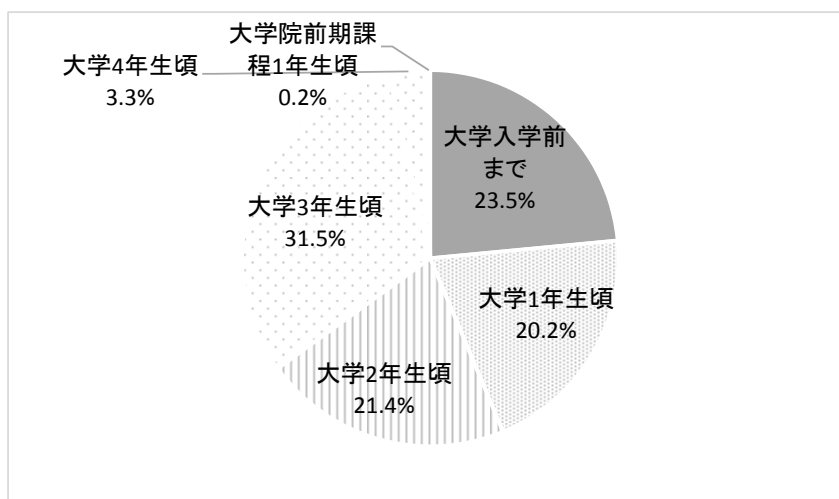


図表 2-6.進路先に対する満足度

2. お茶大生の進路決定とキャリア支援の利用

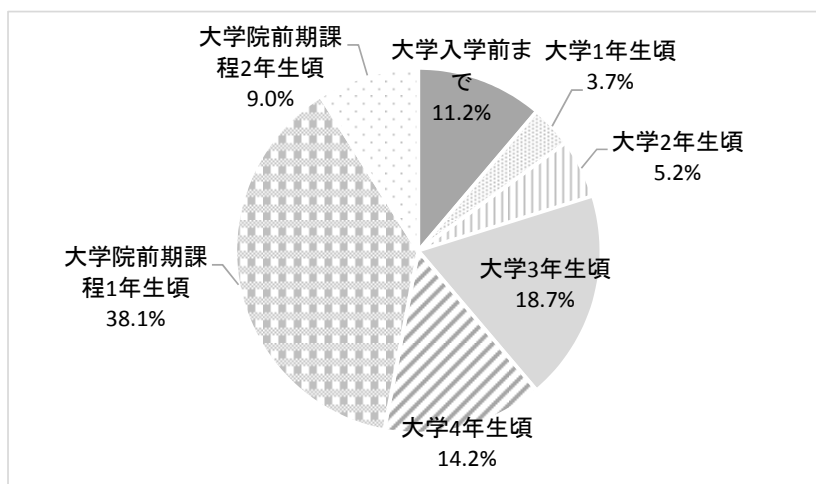
(1) 進路決定の時期

対象者全員に対し、進路を考え始めた時期について尋ね、「1. 大学入学前まで」から「7. 大学院前期課程2年生頃」からあてはまる時期を選んでもらった。図表 2-7 に学部生の結果を示す。最も多いのは「大学3年生頃」31.5%、次いで「大学入学前まで」23.5%、「大学2年生頃」21.4%と続く。学部生からは、3年生になってから進路を考え始めたという声はよく聞くが、その一方で大学入学前から将来を見据えて進路を考えている学生も2割程度いることが示された。



図表 2-7.進路を考え始めた時期（学部生）

次に、図表 2-8 に修士に対して行った結果を示す。最も多いのは「大学院前期課程1年生頃」38.1%、次いで「大学3年生頃」18.7%、「大学4年生頃」14.2%と続く。この結果から、大学院に進学してから、進路を考える人と学部の3～4年生のうちに将来を視野に入れて修士に進学する人がそれぞれ4割程度であり、同じくらいの割合となっていることが示される。しかし修士2年になってから進路を考える学生も1割程度いる。この結果から、進路を就職とする場合を考慮すると修士に進学する場合でも学部3～4年次もしくは修士1年から就職にむけた準備を促すことが必要である。

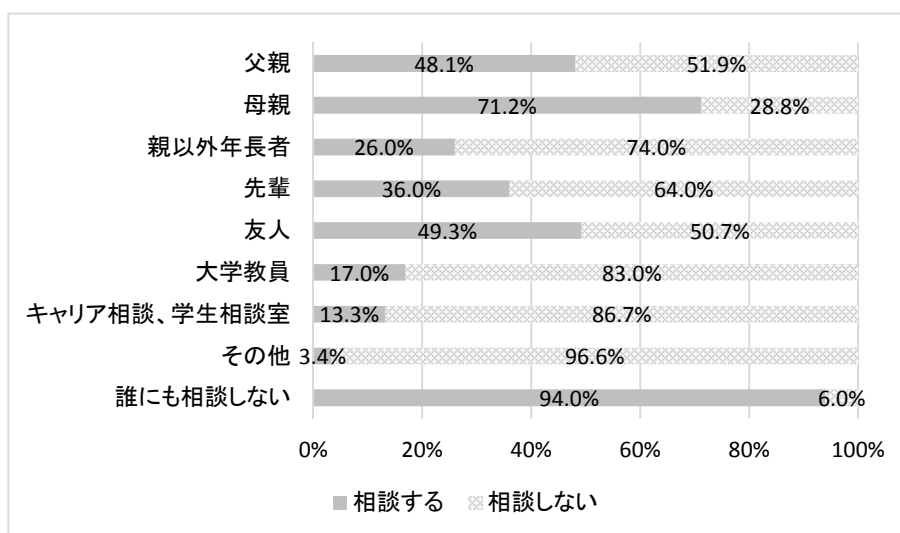


図表 2-8.進路を考え始めた時期（修士院生）

(2) 就職・進学など進路の相談相手

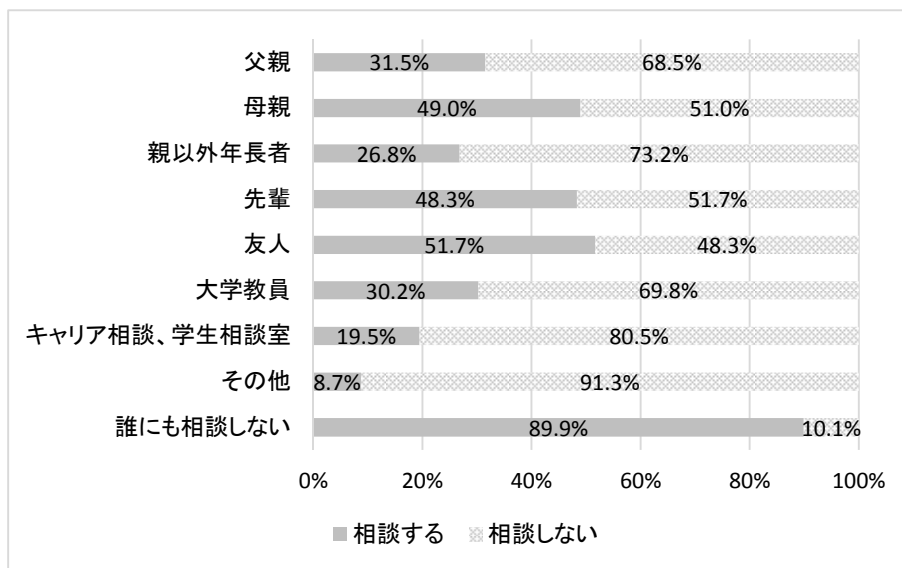
学生が就職・進学などの進路についての相談誰にしているか、について父親、母親、親以外の年長者（祖父母、兄弟、親類、知人など）、先輩、友人、大学の教員、大学の相談窓口（キャリア相談、学生相談室など）から選んでもらい回答を得た。

学部生の結果を図表 2-9 に示す。学部生では、最も多い相談相手が「母親」71.2%、次いで「友人」49.3%、「父親」48.1%である。大学関連では「大学教員」が 17.0%、「キャリア相談・学生相談室」は 13.3%となっている。「誰にも相談しない」と回答した学生は 6.0%であった。この結果からは、学部生にとって第一の相談相手は母親もしくは父親であること、次いで友人とつづき、自分を良く知り信頼のおける人を進路の相談相手としていることが明らかになった。そして学生支援としての教員やキャリア相談・学生相談の利用は 1～2 割以内となっている。



図表 2-9. 就職・進学などの進路を相談する相手（学部生 N=566）

次に修士院生の結果を図表 2-10 に示す。修士院生では、最も多い相談相手が「友人」51.7%、次いで「母親」49.0%、「先輩」48.3%である。学部生とは異なり、「父親」は 31.5%であった。大学関連では「大学教員」が 30.2%と学部生と比較して 2 倍の割合となっている。「キャリア相談・学生相談室」は 19.5%と学部生の割合よりも多い。「誰にも相談しない」と回答した修士院生は 10.1%であった。これらの結果から、修士院生にとっての主な相談相手は友人や母親、先輩であり、さらに大学教員とキャリア相談・学生相談なども相談先としている人が 2～3 割程度見受けられた。



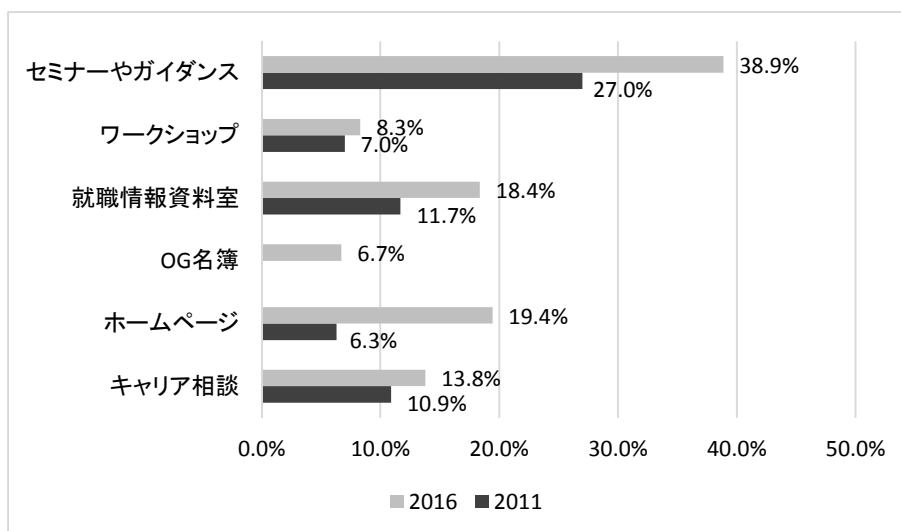
図表 2-10. 就職・進学などの進路を相談する相手 (修士院生 N=149)

(3) キャリア支援の利用状況と学生の評価

学生・キャリア支援センターでは、学部生および大学院生を対象に年間を通じてさまざまなキャリア支援活動を実施し、多数の学生が利用をしている。ここでは、学生・キャリア支援センターが実施するキャリア支援の利用の有無を尋ね、さらに利用したことがある場合には、参加学生がどの程度役に立つと思っているかを尋ねた。各キャリア支援活動の「役立ち度」は、「5. とても役に立った」「4. まあまあ役に立った」「3. どちらともいえない」「2. あまり役に立たなかった」「1. まったく役に立たなかった」から選択の上、回答を得た。

図表 2-11 では、2011 年に実施したキャリア意識調査と今回の調査結果の比較を示す。学部生が「利用した」と回答したキャリア支援の利用状況である。

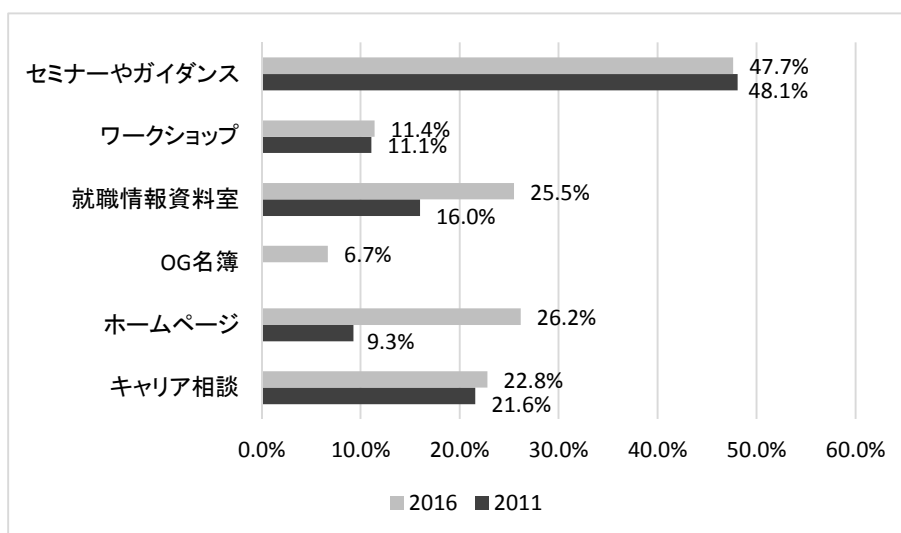
2017 年の調査結果を見ると、「セミナーやガイダンス」を利用したことのある学部生は 38.9%、次いで「ホームページ (の閲覧)」19.4%、「就職情報資料室」18.4%、「キャリア相談」13.8%であった。セミナーやガイダンスは約 4 割の学生は参加した経験があるが、このような行事では、学生数に対して参加学生数が多く見受けられるのがお茶の水女子大学の特徴であり、キャリア関連の情報収集に熱心であることが推察される。次に、ホームページの閲覧や就職情報資料室の活用は約 2 割程度である。2011 年の調査結果と比較をすると、いずれの項目においても利用する割合は増加している。分析対象者数などが異なるため結果の解釈には注意が必要であるものの、本学でのキャリア支援活動が学生に浸透しつつあることが推察される。



図表 2-11. キャリア支援の利用状況（学部生 2016 年 N=566、2011 年 N=2091）

続いて図表 2-12 に修士院生を対象にし、2011 年調査との比較した結果を示す。修士院生の 2016 年の調査結果では、「セミナーやガイダンス」を利用したことのある院生は 47.7%、次いで「ホームページ（の閲覧）」26.2%、「就職情報資料室」25.5%、「キャリア相談」22.8%であった。学部生と比較すると、総じて利用率は上回り、修士院生の場合は就職をより意識してキャリア支援を利用していることがうかがえる。

次に 2016 年と 2011 年との比較について、修士院生は学部生とは異なり、キャリア支援の利用状況は「セミナーやガイダンス」「ワークショップ」「キャリア相談」ではあまり利用率に違いはない。一方ホームページおよび就職情報資料室については、2016 年は 2011 年に比べて 10 ポイント以上も利用率が多い結果となった。

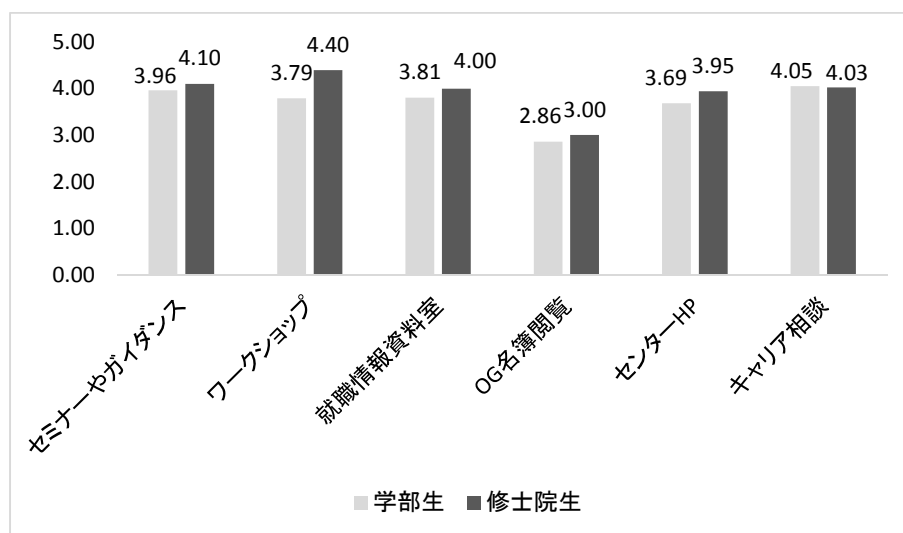


図表 2-12. キャリア支援の利用状況（修士院生 2016 年 N=149、2011 年 N=546）

次に 2016 年調査項目において学生は利用したキャリア支援について役立ち度として尋ねた結果を図表 2-13 に示す。役立ち度として「とても役にたった」5 点、「まあまあ役に立った」4 点、「どちらともいえない」3 点、「あまり役に立たなかった」2 点、「まったく役に立たなかった」1 点としてあてはまる数字を 1 つ選んでもらった。

セミナーやガイダンスについて、学部生 3.96 点、修士院生 4.10 点であった。「まあまあ役に立った」に近く、修士院生のほうが学部院生よりも役立つと評価している。ワークショップは、学部生 3.79 点、修士院生 4.40 点であった。学部生からは「まあまあ役に立った」と「どちらともいえない」の間の評価を受け、修士院生からは「とても役にたった」と「まあまあ役に立った」の間での評価である。就職情報資料室については、学部生 3.81 点、修士院生 4.00 点、OG 名簿閲覧は学部生 3.81 点、修士院生 4.00 点、センターHP については学部生 3.69 点、修士院生 3.95 点である。これらの結果に共通しているのは、学生からの評価の大半は「まあまあ役に立つ」ということであり、学部生よりも修士院生のほうがより役立つと肯定的な評価をしている。

この結果からは、学部生に比べて修士院生のほうが、大学が提供するキャリア支援の重要性と支援活動のありがたみを理解しているためであることが推察される。



図表 2-13. キャリア支援の役立ち度